



Tomoko KITAJIMA

国をあげて取り組む重要課題 —精神保健医療福祉の改革—

障害保健福祉部 精神・障害保健課
課長

北島 智子

平成13年 青森県健康福祉部長(総合周産期母子医療センターの立ち上げ)
平成14年 厚生労働省医政局指導課医療計画推進指導官(医療計画の見直し、AEDの普及)
平成16年 厚生労働省医政局総務課医療安全推進室長(医療安全対策・院内感染対策)
平成20年 国立国際医療センター国際医療協力局長(OIDA、国際保健医療協力)
平成23年 新潟県副知事(地域医療の再編、医師確保対策)
平成25年 現職
趣味 — スキー、旅行

精神疾患を取り巻く状況

うつ病等の気分障害の増加など、精神疾患で医療機関を受診する患者数は近年急増しています。精神疾患は患者自身の生活の質が低下することに加え、社会経済的にも多大な損失を生じます。また、自殺の原因にもなっており、国をあげて取り組むべき重要な課題です。

精神保健医療福祉の改革

平成25年6月、精神保健福祉法の一部が改正され、本年4月に施行されました。医療の質の向上と機能分化、保護者制度の見直しや医療保護入院にかかる手続の見直し、精神科病院の管理者に対する退院促進の義務づけなど、「入院医療中心から地域生活中心へ」という目標に向けて、さらなる一歩を踏み出したところです。また、自殺対策や薬物、アルコール、ギャンブル等の依存症対策、摂食障害や震災被災者の心のケアなど、精神保健を取り巻く問題は多岐にわたっています。こうした様々な課題に医系技官が関わり、看護、PSW、法律、予算など他の職種の人たちと一緒に取り組んでいます。

いま、取り組んでいること

精神科病院の長期入院患者の地域生活への移行が最大の課題だと思っています。今年は、こうした患者さんたちの地域の受け皿づくりについて具体的に検討する予定です。単

に医療や福祉の問題として捉えるのではなく、精神障害者の生活の質の向上を目指して施策を進めていきたいと考えています。

思い出深いこと

自治体勤務は、埼玉県医療整備課、埼玉県大宮保健所の医員を皮切りに、山梨県健康増進課長、青森県健康福祉部長、新潟県副知事を経験しました。就職するまで東京を離れたことがありませんでしたが、自治体勤務のお陰で、地域医療や高齢社会の問題を身をもって知ることができました。また、各地域の自然や食を楽しむこと、そして土地の人々との交流はどれも思い出深く、今でも一緒にスキーを楽しむ友人たちは、何にも替え難い宝となっています。

希望者へのメッセージ

行政の仕事は、多くの方々との出会いや経験を与えてくれます。先日、このポストに就いてからの7ヶ月間にいただいた名刺を数えてみたところ700枚以上ありました。月平均で100人もの方々と新たに出会っていることに驚くと同時に、この仕事で各方面で活躍している皆様のご協力に支えられていることを改めて感じました。こうした出会いや経験を通じて多くを学び情報を得て視野や発想が広がること、そして、それを仕事に活かすことができることが行政の仕事の大きな魅力だと思っています。